

【特許請求の範囲】

【請求項1】 レールに取付けられたピボット受け金具に回転可能に装着されるピボットにより軸支される折り畳み扉の施工治具であって、

一部が前記レールから突出し、該レールに嵌入して使用し、全長が適正位置に配置された前記ピボット受け金具の端部から縦枠までの長さに形成されていることを特徴とする折り畳み扉の施工治具。

【請求項2】 ピボット受け金具をレール内に移動可能に仮取付けする工程と、

請求項1記載の折り畳み扉の施工治具をレール内に入れ、該施工治具の端部を縦枠に当接させる工程と、前記ピボット受け金具の端部を前記施工治具に当接させるように前記レール内を移動し、当接した位置で固定手段で該ピボット受け金具を前記レールに固定する工程と、

ピボットが取付けられた折り畳み扉の前記ピボットを前記ピボット受け金具の受け坪に挿入する工程とを有することを特徴とする折り畳み扉の施工方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、クロゼット等の折り畳み扉を簡便に施工する施工治具及びその施工方法に関する。

【0002】

【従来の技術】ピボットにより軸支されるクロゼット用の折り畳み扉10は、図2に示すようにしてクロゼットの扉枠に取付けられている。即ち、予め折り畳み扉10の所定位置の上下に上部ピボット11、下部ピボット12及びランナー13を取付けておき、扉枠を構成する図示しない上枠及び下枠にそれぞれレール14、15を取付ける。そして、レール14、15にそれぞれ上部及び下部のピボット受け金具16、17を仮取付けしておき、折り畳み扉10を折り畳んだ状態で持ち上げて上部ピボット11及び下部ピボット12をそれぞれ上部及び下部のピボット受け金具16、17に吊り込み、上下のランナー13をそれぞれレール14、15内に納めるようにする。折り畳み扉10を一応レール14、15に取付けた後、折り畳み扉10の位置をピボット受け金具16、17を移動させながら所定の位置に調整し、所定の位置にピボット受け金具16、17が収まった状態でねじ締めしていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記施工方法においては、折り畳み扉10を予め装着した後、ピボット受け金具16、17の位置を動かして調整をする必要があるが、上枠及び下枠と折り畳み扉との隙間が極めて小さいので、薄いスパナ等を用いて無理な姿勢で調整しており、特に、上部のピボット受け金具の調整は高い位置にあるので、脚立等を用いて行う必要があり、

極めて時間がかかるという問題がある。本発明はかかる事情に鑑みてなされたもので、ピボット受け金具と縦枠との適正な調整が極めて簡単に行える折り畳み扉の施工治具及びその施工方法を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記目的に沿う請求項1記載の折り畳み扉の施工治具は、レールに取付けられたピボット受け金具に回転可能に装着されるピボットにより軸支される折り畳み扉の施工治具であって、一部が前記レールから突出し、該レールに嵌入して使用し、全長が適正位置に配置された前記ピボット受け金具の端部から縦枠までの長さに形成されている。また、請求項2記載の折り畳み扉の施工方法は、ピボット受け金具をレール内に移動可能に仮取付けする工程と、請求項1記載の折り畳み扉の施工治具をレール内に入れ、該施工治具の端部を縦枠に当接させる工程と、前記ピボット受け金具の端部を前記施工治具に当接させるように前記レール内を移動し、当接した位置で固定手段で該ピボット受け金具を前記レールに固定する工程と、ピボットが取付けられた折り畳み扉の前記ピボットを前記ピボット受け金具の受け坪に挿入する工程とを有している。

【0005】請求項1記載の折り畳み扉の施工治具及び請求項2記載のその施工方法においては、ピボット受け金具をレールに取付けるに際し、予めピボット受け金具の取付け位置を決定できる施工治具をレール内に挿入し、この施工工具の端部を縦枠に当接させると共に、ピボット受け金具の端部をこの施工工具の端部に当接させるようにして、ピボット受け金具の位置を決定しているので、ピボット受け金具を常時所定の位置に取付けることができる。この後、折り畳み扉を取付ければ良い。

【0006】

【発明の実施の形態】続いて、添付した図面を参照しつつ、本発明を具体化した実施の形態につき説明し、本発明の理解に供する。ここに、図1は本発明の一実施の形態に係る折り畳み扉の施工方法及びこれに使用する折り畳み扉の施工治具の説明図である。なお、本実施の形態においては、図2に示した従来例に係る構成要素と同一の構成要素については同一の番号を使用し、その詳しい説明を省略する。

【0007】図1に示すように、折り畳み扉の施工治具20（以下、単に施工工具という）は、金属、木材又はプラスチックからなつて溝形のレール15の溝21内に上部から遊嵌する幅を有し、その高さは溝21の深さと略同一かあるいは少し高くなっている。そして、一方施工工具20には溝21の上部から突出する突出部22を備えている。

【0008】突出部22の頂上部の高さは、この施工工具20を溝21に入れた場合に、レール15に取付けたピボット受け金具17の高さ、即ちナットの頭部24の高さと同一かやや低く形成されている。また、突出部2

2はこの施工工具20を溝21内に入れた後、溝21から取り出すときにドライバー等の先でこじたり、ペンチ等で挟んで取り出せるようにするためのものである。

【0009】この施工工具20の全長Lは、レール15にピボット受け金具17を正しく入れた場合の縦枠25からピボット受け金具17の端部26までの距離Wに一致させておく。なお、この実施の形態においては、下側のレール15に取付けるピボット受け金具17についてのみ説明したが、上側のレール14に取付けるピボット受け金具16の施工工具についても同様であり、そのまま使用できる場合には、この施工工具20を使用する。

【0010】従って、この折り畳み扉の施工治具20を用いた、折り畳み扉の施工方法は、まず、図示しない上枠及び下枠27にレール14、15をそれぞれ取付ける。そして、このレール14、15にピボット受け金具16、17を仮取付けした後、施工工具20をレール14、15の溝21内にそれぞれ入れて、その端部を縦枠25に当接させ、施工工具20の他端にピボット受け金具16、17の端部26が当接するようにして、ピボット受け金具16、17のねじをスパナ28で締めて固定する。この状態で、ピボット受け金具16、17の位置が決まるので、折り畳んだ状態の折り畳み扉10を取付け、次に折り畳み扉10に取付けられているランナー13をそれぞれレール14、15に嵌入させて折り畳み扉10の取付けが完了する。

【0011】前記実施の形態においては、レールやピボット受け金具の形状については特定して説明したが、施

工工具の目的とする所は、ピボット受け金具を所定位置に決めるゲージとなるものであるから、例えば、折り畳み扉の寸法に応じて、所定長さに施工工具の長さを変えるもの、レールの溝内に部分的に入らないもの等であっても本発明は適用される。

【0012】

【発明の効果】請求項1記載の折り畳み扉の施工治具及び請求項2記載の折り畳み扉の施工方法においては、予め決められた間隔にピボット受け金具を取付けることができ、折り畳み扉を取付けた後に、折り畳み扉と縦枠との間隔を均一にする調整作業を省略することができ、簡便に折り畳み扉の施工ができる。

【図面の簡単な説明】

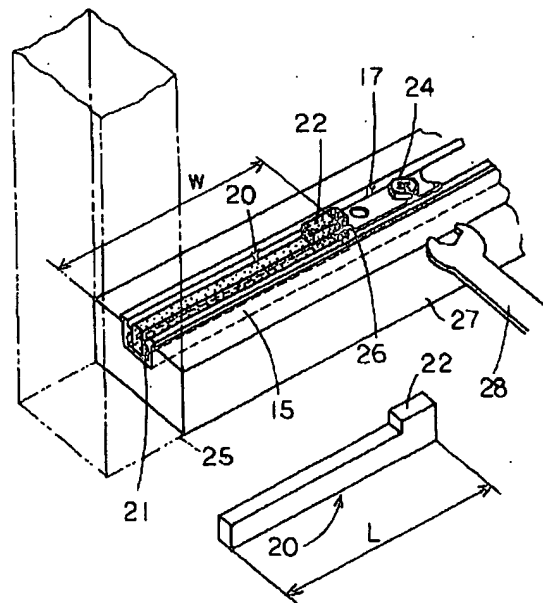
【図1】本発明の一実施の形態に係る折り畳み扉の施工治具及びその施工方法の説明図である。

【図2】従来例に係る折り畳み扉の施工方法の説明図である。

【符号の説明】

13	ランナー	14	レール
15	レール	16	ピボット
17	ピボット受け金具	20	折り畳み
21	溝	22	突出部
24	頭部	25	縦枠
26	端部	27	下枠
28	スパナ		

【図1】



【図2】

